

論文内容の要旨

報告番号		氏名	松浦 広樹
Influence of self-esteem and psychiatric diagnosis on Health-related Quality of Life in children and adolescents with School Refusal Behavior (和訳) 不登校行動のある子どもの健康に関連した生活の質に及ぼす自尊感情と精神医学的診断の影響			

論文内容の要旨

背景:不登校行動は一日を通して学校にいない状態であり、気分障害などの精神疾患、行動の問題と関連しているが、同時に健康に関連した生活の質とも関連していると考えられる。しかし、不登校行動のある子どもの健康に関連した生活の質に対して、精神医学的診断や自尊感情がどのように影響を与えているかは明らかになっていない。これらの影響を理解することが、より効果的な治療介入に役立つと考えられる。

方法:奈良県立医科大学附属病院及び関連施設を受診した8-18歳の175名が参加した。不登校行動群70名と性別、年齢をマッチさせた慢性疾患のない健常群105名を対照群とした。精神医学的診断は診療録より評価した。健康に関連した生活の質は根津らによって日本語に翻訳され、信頼性、妥当性が明らかにされたJ-KIDSCREEN-52を用いて測定された。不登校行動はSchool Refusal Assessment Scale-Revised for Japanese Attendance at School、自尊感情はローゼンベルグの自尊感情評価尺度、精神的健康状態は強さと困難さのアンケート、社会的支援の程度はOslo 3-item Social Supportを用いて評価された。不登校行動群と対照群の二群比較及び重回帰分析を行った。

結果:不登校行動群では対照群と比較し、社会の受け入れ以外の9領域でJ-KIDSCREEN-52の得点が低く生活の質が低下していることがわかった。また不登校行動群の子どもの35.7%は慢性疾患があると回答し、保護者の35.7%に何らかの治療中の疾患があった。不登校行動群の重回帰分析にて、子どもに精神疾患があることが健康に関連した生活の質の低下に影響していることが明らかになった。しかし、自閉スペクトラム症は健康に関連した生活の質の低下に影響を与えなかった。自尊感情の高さは、J-KIDSCREEN-52の6領域の健康に関連した生活の質に正の影響を与えた。

結論:我々の結果は不登校行動のある子どもの健康に関連した生活の質が健常者より低いことを示した。背景にある精神疾患の種類は健康に関連した生活の質に異なる影響を与えており、出来るだけ早期に精神疾患を評価することが重要である。また不登校行動のある子どもの自尊感情を高めることは、健康に関連した生活の質を高めることに役立つ可能性がある。